

長井長義

エフェドリンを発見、日本の薬学の基礎を作る。東京帝国大学教授、衛生局東京試験所長、大日本製薬会社製薬長など歴任、産官学に渡る活動を展開した。また薬剤師養成と医薬分業を主張した。独逸学協会学校校長、日独協会理事長を務め、日本女子大学創設に尽力して女子教育にも力を入れた。ドイツからは独逸国赤十字第一等名誉章を授与される。徳島高等工業学校設立に尽力して、現・徳島大学薬学部の基礎を作り、製藍改良の実験により阿波藍の優秀性を証明するなど、地域にも貢献した。



生家跡のプレートと記念の石柱、生家のあった通りは「長井長義通り」と名づけられている(徳島市中常三島町2丁目、徳島大学理工学部東側)。

長井長義博士胸像は日本薬学会により昭和29年に徳島公園に建設されたが、昭和48年に徳島大学薬学部開設50周年を記念して、同学部内に移転され、関連史料とともに展示されている。⇒徳島大学薬学部・薬科学教育部インフォメーションプラザ https://www.tokushima-u.ac.jp/ph/faculty/facilities/education_research/information_plaza.html

長井長義資料委員会が関連書籍を出版している。企画展として、「第5回特別展 徳島の偉人 長井長義展示会」(2013年4月22日～8月30日、於:徳島大学ガレリア新蔵展示室)が開催された。⇒ <https://www.tokushima-u.ac.jp/docs/2013050200014/files/nagai.pdf>。評伝映画「ころざし～舎密を愛した男」(徳島大学長井長義映像評伝実行委員会、2011年)がある(本館・分館にDVD所蔵)。

孫の貞義の寄付により、徳島大学に長井記念ホールが建設された。一方、長男の亜歴山(アレキサンダー)は母テレゼを偲んで、ドイツから取り寄せた石材で鳴門大毛島土佐泊に洋館を建設した。現在は「花見山・心の手紙館」となっている。また縁あって眉山大滝山の八坂神社を所有し、多くの花木を植え「花見山」とした。

